

JFW INTERNATIONAL FASHION FAIR



25日から東京ビッグサイトで始まったJFWインターナショナル・ファッション・フェア(JFW-IFF)は、環境保全や社会貢献などエシカル(倫理的)を切り口にした商品、事業展開の打ち出しが目立つ。社会性を帯びたエシカルムーブメントは東日本大震災を契機に加速した。成熟した国内ファッション市場に新しい価値観を提示する動きが、多くの来場者に注目されている。

25日から東京ビッグサイトで始まったJFWインターナショナル・ファッション・フェア(JFW-IFF)は、環境保全や社会貢献などエシカル(倫理的)を切り口にした商品、事業展開の打ち出しが目立つ。社会性を帯びたエシカルムーブメントは東日本大震災を契機に加速した。成熟した国内ファッション市場に新しい価値観を提示する動きが、多くの来場者に注目されている。



①中期的な震災復興につなげる「東北コットンプロジェクト」
②「ピープル・ツリー」はファッションナブルな商品で社会貢献を目指す③家族の絆を深める「エコマコ」

エシカルムーブメントが加速

環境保全や社会貢献など

来場者の声

ポヘミアンやLAっぽさ
窪園克己アロー商品部バイヤー
ハイティーン対象のカジュアル



ですが、今シーズンは価値観のある大人っぽい服を探しています。ワンピースならこれまで6000円位が中心でしたが、8000~1万円でもいい。秋冬のレトロの流れは継続していますが、その先は、ポヘミアンやロサンゼルス(LA)っぽい感覚が良さそう。色柄のきれいな明るいリラックス感のあるものが受けそうです。90年代にはやったボトムのイレギュラーシルエットなどデザイン物も取り入れていきたいと思えます。

くすぐる価格の雑貨

山本理恵シティーヒル「オンザカウチ」事業部販売統括マネージャー
ギフトにもなるような手頃な価格のカラフルな雑貨を探しています。秋冬からはアミナコレクションの巻物やコサージュ、手袋など1000円くらいのものを販売して好評でした。今回のブースではバッグ中心のアンカーが気になりました。アメカジっぽい感じで、見た目より値段、色のバリエーションが豊富です。値引きをできるだけ減らしていきたいので、プロパーで買いたいと思えるくすぐる価格のものをやっていきたいですね。



ファッションナブルに

「社会貢献につながる商品に高いデザイン性を加えることで市場が広がる。それがより多くの世界の恵まれない人々の就業機会を生むことにつながる」とフェアトレードカンパニー、独自ブランド「ピープル・ツリー」はデザイナーと協働で商品企画し、その物作りをインド、ネパール、バングラデシュ、ケニア、ペルーなど10カ国・約40のNGO(非営利団体)などの生産者団体に発注する。ピープル・ツリーは12年春夏コ

レクションとして「コスミック・ワウンダー・ライト・ソース」「ザッキー・シャリフ」「オーラ・カイリー」がデザインしたドレス、チュニック、ショートパンツなどを販売する。「東日本大震災をきっかけに消費行動に社会的な意味を求める意識が高まっている」と見ている。

プレーリードッグが出品しているのは、米ブランド「ループロワークス」。廃棄素材を使い、高品質でファッションナブルに仕上げた商品群が特徴で、米国で提唱されたアップサイクル(質の向上を伴う再生利用)の概念に適合している。代表的なア

イテムは、ウエットスーツの残布で製作したパソコンケース、カメラケースなど。工場で余ったテキスタイルを使ったウエアやバッグなど、アイテムは幅広い。日本での店頭投入は4月からで、専門店、百貨店の催事などを想定。「最初にデザインが評価され、コンセプトを説明すると、より共感が得られる」と自信を見せている。



いわて産業振興センター

いわて産業振興センターのブースには岩手県内の縫製工場6社が出展、サンプル製品を展示している。アピールするのは「岩手発メイド・イン・ジャパン」の高度技術力。初日の午前中から、いくつかの通販企業からアプローチがあるなど、来場者の関心も高い。6社がメインにするのは婦人服から紳士服、子供服幅広く、さまざまな来場者のニーズに応えるものになっている。婦人スーツ、アンサンブル主力の三和ドレスの大沢孫蔵社長と婦人ジャケット、コート主力の岩手モリヤの森奥信孝社長は「出展している製品はどれも各社のオリジナルの商品。品質と技術の高さを

メイド・イン・ジャパンの技術アピール

岩手発の品質と技術力を強調



をぜひ見て欲しい」と口を揃える。それだけに「発注と商談につながれば」と期待する。

その他の出展者は、二戸サントップ(紳士スーツ、ジャ

ケット)、二戸ファッションセンター(婦人ジャケット、コートなど)、東京ドレス研究所(婦人ドレス、スーツなど)、プランタンいずみ(ベビー・子供服)。

分かち合える

ポリ乳酸素材を使ったウエディングドレスを受注販売する「エコマコ」は、花嫁の大切な思い出を刺繍などで表現し、着用後は赤ちゃんのおくるみやパーティードレスなどへの再利用を提案。岡正子デザイナーは「一度きりではなく、新しい家族の生活に生かされ、より多くの人と分かち合えるものであってほしい」とアピールする。

「東北コットンプロジェクト」は震災復興を支援するブースを出展。東日本大震災による津波で耕作が困難になった農地に、塩害に強い綿栽培をして、紡績、商品化、販売を参加企業が共同で行う。今回、参加企業で出展したのは大正紡績と新藤。新藤の藤澤徹社長は「今回のプロジェクトが進めば純国産の原綿の調達が可能になり、最終製品化まで一貫したブランドが作れる。持続可能なビジネスモデルが創出できれば、中期的な東北支援にもつながる」と見ている。

